

～日本酒を取り込んだジオストーリーの構築～

平成26年地域政策研究センター(地域提案型・後期) 採択課題

課題名：地産品へのジオストーリー付加によるジオパークプロモーション手法の開発
研究代表者：総合政策学部 教授 伊藤英之
課題提案者：三陸ジオパーク推進協議会 杉本伸一
研究メンバー：下向 尚文・関 博允(三陸ジオパーク推進協議会)
技術キーワード：ジオストーリー, ジオツアー, 持続的地域活性化

▼研究の概要(背景・目標)

ジオパーク活動においては、ジオの保全、教育とジオツーリズムの活性化が課題となる。本研究では、既存地産品について、地質学的解釈や科学的根拠を収集整理し、ジオと地産品との相互関係を明らかにすることで、ジオストーリーとして新たな商品価値を見いだすことが可能か模索的研究を行った。

▼研究の内容(方法・経過)

本研究では、数多くある三陸地域の地産品の中から、「日本酒(地酒)」を検討の対象とした。日本酒の原材料である米と水のうち、特に水は、地域の地質学的背景と密接な関係があり、日本酒の味を決定づける重要な要素である。また、南部杜氏に代表される優れた技術や経験など、ジオと人間との関わりを総合した魅力的なジオストーリーの構築が期待できる。そこで、三陸ジオパークエリア内に存在する酒造所9つのうち、地質学的に特徴のある5つの酒造メーカーを抽出し、ヒアリングを行った。その結果、すべての酒造メーカーで、自社建物直下から湧出する地下水または周辺の湧水を使用していることを確認した。この中で特に地質学的な背景が明確になっている泉金酒造株式会社を題材として、ジオストーリーの作成を試みた。

▼研究の成果(結論・考察)

現在試作されたジオストーリーは、地質資源と水をつなげただけのもので、地産品のプロモーションとして使用するには、底が薄い。尾方(2015)が指摘しているように、ジオストーリーは、地質、地形等を強引に結びつけるのではなく、文化や生態系など、様々な地域資源をシームレスにかつ当該生を持って説明する必要がある。そのためには、岩泉町が有する地質資源のみならず、岩泉町に存在する地域資源すべてを抽出し、関連性を持たせてストーリーの再構築を測る必要がある。

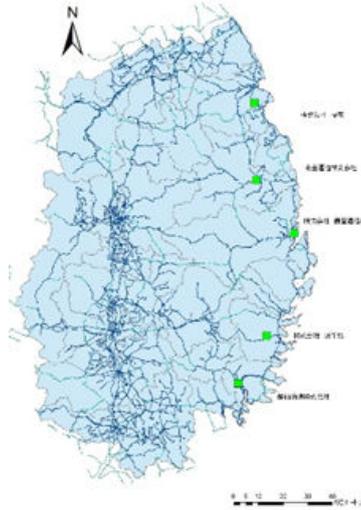


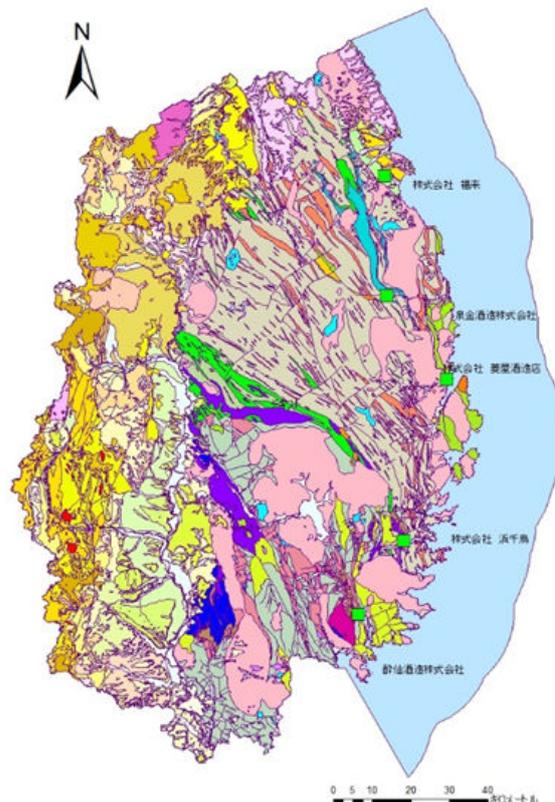
図1 ヒアリング対象とした酒造会社



図2 泉金酒造でのヒアリングの様子



図3 福来酒造でのヒアリングの様子



(参考文献)

- ・伊藤英之・他(2015):地学雑誌, vol.124,No.4, 561-574.
- ・尾方隆幸(2015)地学雑誌, Vol.124,No.1,31-41.